

# 国際社会連携で 中国進出對抗を

安全保障シンポ

第10回安全保障シンポジウム（NPO法人ネットジャーナリスト協会主催、読売新聞社後援）が1日、東京都内で開かれた。自民党の小野寺五典・元防衛相ら出席者からは、中国の海洋進出に對抗するため、国際社会との連携を強化すべきだとの意見が相次いだ。

小野寺氏は、南シナ海での中国による人工島の軍事拠点化を念頭に「東南アジア

予定だ。与党内からは「増税先送りの『お墨付き』を

アの国々の海上警察などに、能力構築を高める応援をすることが日本らしい支援だ」と指摘した。民主党の長島昭久・元防衛副大臣も「アジア太平洋地域で米国の力が低下している。日本や豪州、韓国などと一緒に中国の動きを押しとどめる行動が必要だ」と強調した。

一方、黒江哲郎防衛次官は、核・ミサイル開発を進める北朝鮮に関し、「制裁をものともせず核実験を行った。どういう考え方で行動しているか見えにくく、不透明性が高まっている」と懸念を示した。（シンポジウムの詳細は14日朝刊に掲載する予定です）